

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200354		
法人名	株式会社 エフォットケア		
事業所名	グループホーム風		
所在地	佐賀県唐津市呼子町殿ノ浦92番地1		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年11月14日	外部評価確定日	平成30年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の気持ちに寄り添うように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念に加え、より具体的な「ケアのルール」を作っている。利用者との接し方や、介護に係わる者としての基本を敢えて挙げている。利用者の動きを見てすぐに傍に行き声を掛ける様子には、それらが活かされているのが窺える。また隣接する同法人の事業所とは普段から行き来をし、職員が全ての利用者に対して顔を見せ挨拶をしていることで所属の区別なく対処できることも特徴である。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を基に「利用者に対するケアのルール」をつくり、利用者様優先の考えで支援行っている。毎月、特に気をつける、力を入れる意味で目標も設定している。	「目配り、気配り、緊張感」と端的に表現している理念に加え、具体的に示す「ケアのルール」もある。研修の資料やアドバイスを基に作られており、日々のケアで実践すべき5項目を挙げている。毎月の職員会議で取り上げ浸透も図っている。利用者の少しの動きにも気付き傍に寄る姿勢や、すれ違う時でさえ何かしらの声を掛ける様子にはそれらが活かされているのが窺える。また季節毎の注意事項を毎月の目標として挙げ、次月にはその反省と改善も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回して頂けるようになり、行事等の把握は増えた。 地域婦人会の方などにも声をかけてもらうようになり、行事参加も増えている。	自治会に加入しており回覧板も届けられている。地区の清掃作業等にも積極的に参加をしている。隣接する同法人の小規模多機能施設と合同の行事が多いが、誕生会などは回覧板で周知を図り地域住民の参加も呼びかけている。また運営推進会議を行事と同日に開催し、メンバーが参加しやすいような工夫もある。採れたての野菜などを頂いたり、暑い日の農作業には飲み物を差し入れることもある等日常的な交流の様子が窺える。また地域行事へ出掛けると利用者用のスペース(車椅子も安全)が用意されていたり、周囲の理解も深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症への理解を求めたり、近隣住民、商店、等の方々にも協力してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、施設で行われる運営推進会議で、施設の出来事や入居者様の過ごし方等伝えている。(風だより配布) 地域の情報提供や意見をいただきサービスに繋げるよう努めている。	隣接する事業所と合同で開いている。どちらからも家族の出席がある。ヒヤリハットの報告や行事の案内・報告等を交え約一時間の会議である。メンバー同士が顔見知りとなり、互いの交流も出来ている。意見箱に入りにくい家族の想いを知る術として、来所時の署名用紙にアンケートを重ねて渡し、記入をお願いしている例はこの会議がきっかけである。当外部評価の結果はこの場でも報告される予定である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、行政職員と情報や意見の交換ができています。	会議メンバーである市担当者は、異動時には連絡があり後任へ引き継いでくれている。他の介護に関する部署の担当者とも接点があり、電話での問い合わせや内容によっては直接出向くこともある。実直に対応してもらえる関係を築いている。また介護相談員の訪問もあり、毎月一時間程度を滞在し、利用者の話し相手をしながら想いを聞き取っている。今後も事業所との橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」について事業所内で研修を行い、指導も行っている。 日中の玄関の施錠はないが、ブザーは設置している。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員会議でも勉強会のテーマとして取り上げており、身体拘束の内容とその弊害は理解している。仮に不適切なケアがみられた場合はまずその理由を尋ね、全体の事として周知をしている。玄関に施錠はなく、外へ向かう利用者があれば一緒に歩き、無理に引き返すことはない。行動は抑えないのが基本である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加。 地域包括支援センターから来所いただき、施設内研修をスタッフ全員受けることができた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項等の説明を行い納得された上での契約となっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料をあえて施設へ届けてもらう事により面会に繋げ生活の様子を伝えている。その折、家族様の意見や要望を聞き、できる限り実践するようにしている。	毎月の利用料明細を送付する際にはホーム便りも同封している。敢えて現金払いとしているため家族は毎月訪れている。近況等は来所時に伝えているが電話での報告もある。事業所では直接話せる機会を大切にしており、世間話等も交えながら話しやすい雰囲気づくりに努めている。また訪れる家族にも高齢化がみられ健康面などで声を掛ける配慮がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、グループホーム会議を行っている。それに限らず申し送り等、職員が意見を出せるよう機会を設けている。	毎月の職員会議は約一時間、休みの職員も自主的に参加している。限られた時間をスムーズに進めるための工夫として内容の事前周知や、取り上げてほしい事があれば募つてもいる。他にヒヤリハットの改善策や勉強会等が主な内容となり、現場の声も自由に発言できている。代表者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、コミュニケーションを図る事はもちろん、表情等から体調への気遣い、また定時での帰宅や休憩時間の取得も勧めている。当外部評価の自己評価部分は職員が話し合いながら記入しており、自主性を育むことにも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が満足できているかはわからないが、努めるよう心掛けてる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の機会は確保する様に努めている。 また法人外への研修も参加できる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連合会には参加する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わってしまうため、本人の不安が軽減できるよう工夫に努めている。 又、できるだけ家族様には面会に来ていただけるよう、声かけしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族とケアマネが面談し要望等の聞き取りを行っている。 サービス前、スタッフに伝え本人、家族共、良い関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り、対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の一員となり、支援できている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と施設、共に本人を支えて行こうと努めているが、協力的な家族と丸投げの家族と様々で差がある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、帰宅、外出、外泊等、日にち、時間を気にせずできることを、家族に伝えている。 近くのスーパーなど、住み慣れた地域へ外出する機会をつくっている。	入居までの人間関係を把握するためには本人や家族、担当のケアマネージャー、また病院関係者や利用していたサービス事業所からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援として電話の取次ぎや手紙の手伝い等がある。また盆正月の帰宅や墓参り、法事への出席も家族の協力を得ながら実現している。馴染みの美容院へ通う利用者もあり、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本、好きなように過ごされているが孤立を防ぐため、日中はフロアへ誘導し、入居者同士、交流できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に約束などはないが、契約終了時、施設は相談窓口でもあることを伝えている。 外出先で会えば、近況などをきいている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	支援を通じて、希望や意向など聞けるよう努めている。	ケアのルールとして挙げた5項目はどれも日々の関わり方を具体的に示したものである。職員はそれらを意識しながら利用者とは過ごしている。目線を合わせ声を掛け傾聴している中で、入浴中などの寛いだひとときには想いを話してくれることがある。聞き取ったことは口頭や連絡ノートを使い共有を図っている。利用者に、よりよく過ごしてもらうためのヒントとなり活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前、本人、家族の聞き取りを行っている。 支援の中で新たに分かることも多い。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で、当日の状態や特変などないか報告受け、業務にあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と本の関係者に話を聞き、意見を反映し、介護計画を作成している。	ケアプランの設定期間は、入居して間もない頃は毎月見直し、その後、3ヵ月毎、半年毎と移っている。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。家族の希望で多いのは残存能力の維持である。職員はすぐに手を貸すのではなく、出来る事はやってもらう見守りのケアにも努めている。毎月末にモニタリングを行い状況の確認も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や気づきを個人記録に記録し、申し送りやノートを活用し、情報共有している。意見はその度の検討や、GH会議で話し合い、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズにできる限り対応できるよう、サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員によって、地域資源の把握に差があり、勉強不足。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、受診方法は家族の希望が強いが、本人も納得されている。 医療機関と連携をとり緊急時も対処できている。	以前からのかかりつけ医の元へ通う方や、入居後に往診等の説明を聞き納得の上で変更を希望した方、また元々協力医の患者だった方など様々である。診療科目によっては病院を探す事になるが、どのケースであっても要望に沿った支援を行っている。受診には職員が付き添う場合も多く、その際の結果報告は当日中に行っている。また家族のみが付き添う場合には日常のバイタル等を渡し、診察がスムーズに進むよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の変化や気づきは看護師に伝え、適切な対処が行われ、介護職員にも指示があっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会を心がけている。 医療機関と連絡をとり、情報交換等を行い、良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体機能の低下や認知症の進行等、早い段階で、家族や関係者と話し合いをもち、施設でできること等の説明をし、相談も聞いている。	これまでに看取りの経験はないが、今後、希望があれば沿いたいとの想いもある。入居契約時には指針の説明も行っている。事業所の体制や力量を考慮し、職員フォローのための勉強会等も将来的には検討している。容態の変化に伴い話し合いも重ねており、安心して納得した最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全てではない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害の避難訓練を施行し、消防署からの指導も受けている。 地域の方の参加もある。	年2回の避難訓練は昼間だけではなく、少し暗くなる時間帯にも実施している。消防署の立会いもあり利用者も一緒に避難を体験している。全ての職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知しており、避難時にも役立つよう日頃から人数を確認する習慣もある。緊急連絡網の名簿には近隣住民の登録もある。近くの特養ホームには避難場所としての協力もお願いしている。非常食や水の備蓄をしており、今後は寒さを凌げる物も検討される。訓練後には署員からのアドバイスや反省点が直に聞けるため、速やかな改善にも繋がっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応や声かけは、一人ひとり違い工夫している。人格尊重、プライバシー保護には、特に気をつけている。	接遇研修もあり、入居して間もない時期は同性によるケアを心掛けている。利用者毎の対応として、敢えて居室で話をすることもある。また個人情報取扱いに対する職員の意識は高く、業務上の会話であっても大きな声にならないよう、やり取りには注意を払っている。ホーム便りへの写真掲載や居室の名札等も同様で、入居時に確認と承諾を得ている。	トイレに長めの暖簾を掛けてあり、ドアを閉めない介助が常態化しているように窺えた。また一方では暖簾を掛けず、ドアを閉めて利用しているトイレもある。表し難い利用者の気持ちを推し測り、予測される臭気も含め検討されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり、その方に合った表現方法をみつけ、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	保清や身だしなみは気をつけているが、拒否が強い方にはできない時も多い。 衣類選びや部屋に飾るものなど、できる方は職員と一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な野菜の皮むきや、洗った食器を拭くなど、個々の機能を活かしている。 嚥下状態などで、食事の形状を変える時も、食べやすく見た目も拒絶されないよう工夫している。 入居者様、皆、殆ど残されることはない。 食事は楽しみにされていると思われる。	ほぼ専門的に調理に係わる職員がいる。献立は利用者に尋ねたり、近所から頂いた野菜や冷蔵庫の中身で決まることもある。塩分摂取には注意を払い、体重測定等も目安としている。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えが用意される。食の細かい利用者には状況をみて高カロリー食の補充もある。なかなか箸が進まない方へは声掛け等で促し、出来るだけ自分で口へ運んでもらえるよう支援している。職員はお茶を飲みながら利用者と同席し、同じ目線で見守っている。前回の外部評価を受け見直された点でもある。誕生祝いにはケーキも用意され、隣接の事業所と合同で催している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量が分かるように、個々のボトルを準備し管理している。 食事量、栄養バランス等、個々の状態や習慣を把握し、看護師と相談し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が付き添いケア施行。 週に一度、訪問歯科によるケアや指導をうけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄はトイレでと心掛けている。 残っている機能や力が維持できるよう努め、個々の習慣に合わせるようにしている。	排泄に関して自立している利用者もいるが任せたままでなく、さりげない見守りも行っている。日中に限らず、夜間も出来るだけトイレでの排泄を支援している。チェック表で把握し、誘導のタイミングも計れている。入居後のケアにより布パンツへ改善した例もある。これは費用負担の軽減にも繋がっている。便座回りの設備では手摺りはもとより、可動式のひじ掛けもあり自立を促す補助具となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、食事、水分摂取等、便秘にならないよう取り組んでいるが、なった時は医師、看護師の指示で服薬により調節している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者全員の希望やタイミングに合わせるのは難しい。 入浴拒否が強い方の保清のため、本人のタイミングに合わせ、声かけも、お風呂に入ってもいいかな、と 思ってもらえるようなものをと、工夫している。	夏場は週3回、冬場は週2回を目途にしている。入浴しない日でも肌着や下着の交換を清潔保持に努めている。シャンプーやソープ類は事業所で用意され、入浴剤も利用している。シャワーチェア等で安全な入浴にも配慮している。冬場は脱衣場の暖気を浴室へ送り、ヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せる見守りのケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限りの支援は行っている。 看護師にも相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理をし、指示を出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションの中で趣味、嗜好を聞き、楽しめるような時間をつくれるよう、レクリエーション等に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、ドライブ、買い物等で外出している。 地域住民より情報をいただいたり、招待していただいたり、地域の行事に参加する機会も増えた。	利用者から外出の希望を言われることはないが、話題を振れば興味は示してくれる。年間行事で計画している花見や、当日の天候や体調をみて決まるドライブ等もある。近くのスーパーまでおやつ等の買物にも出掛けている。事業所周辺への散歩は日常的なものであり、職員は日差しを浴びるメリットや五感の刺激も理解している。車椅子を押すことが杖代わりになり、安全にも配慮しながらの散歩である。殆ど戸外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクで買い物へ行っている。 お金の理解ができない方が多く、又、お金の強い執着がある方もいるため、現金の取り扱いには、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は頻回な要望になり、家族もこちらからの電話は望んでいないため、かけることはない。 手紙は希望に沿っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、過ごしやすい環境づくりに努めている。 季節の花を飾る。	利用者が日中を過ごすリビングは天井が高く、天窓からの日差しが白い壁とマッチして明るさを演出している。飾りもシンプルで、毎月、季節を感じる貼り絵が交換されている。利用者と一緒に作ったものである。時には窓を開け換気をしているが、これは居室も同様である。掃除は職員が行い、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。騒音は全くなく、不快な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋。 一人で過ごせる部屋、数人で座れるイス。 全員で集まれる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と施設で話し合い、本人好みの物や使い慣れた物をできる限り置けるようにしている。 安心できる環境づくりに努めている。	居室には、火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はしていない。居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。家具の配置や飾り付けは本人と話をしながら家族も行っている。掃除は職員が行うが、たまに出来ることを手伝う利用者もある。季節毎の衣替えや寝具の入れ替えにも配慮している。家族が希望すれば居室での宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるように、居室の扉に名前を付けている。 車イス自走の方が安全に移動できるよう、動線を確保している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない